遺跡出土の獣骨.「飯田町遺跡」、飯田町遺跡調査会、pp. 423-432.

3）茂原信生（1995）飯田町遺跡出土の江戸時代犬骨.「飯田町遺跡」、飯田町遺跡調査会、pp.433-437.

4）茂原信生・松井章（1995）草戸千軒遺跡出土の中世犬骨. 草戸千軒遺跡発掘調査報告III、pp.289-312.

5）茂原信生（1995）新寺遺跡２次調査出土の江戸時代人骨.「新寺遺跡２次」、春日部市遺跡調査会報告書第８集、pp.44-55,図版11-12

6）相見滿（1995）学名の話（23）ラミドゥス猿人その後. モンキー、261:9-11.

7）相見滿（1995）学名の話（24）湖畔の猿人ーカナポイ猿人. モンキー、263:13-15.

8）相見滿（1995）絶滅したヤマイヌの研究. I. F. Report、22:363-364.

9）高井正成・松野昌展（1995）現代モンゴル人の歯科人類学的調査：東アジアのモンゴロイドの進化. ヒマラヤ学誌第６号、p. 47-65.

10）松野昌展・高井正成（1995）モンゴルの首都ウランバートルにおける歯科疾患調査. ヒマラヤ学誌第６号、p.41-46.

11）木下實（1995）ニホンザルのいる風景ー白山山麓の春ー. モンキー、258・259: 36.

12）木下實（1995）ニホンザルのいる風景ー白山山麓の秋ー. モンキー、261: 28.

13）木下實（1995）ニホンザルのいる風景ー白山山麓の夏ー. モンキー、260: 24.

14）木下實（1995）ニホンザルのいる風景ー白山山麓の冬ー. モンキー、262: 28.

15）木下實（1995）ニホンザルの四季ー志賀高原の春ー. モンキー、263:24.

16）木下實（1995）ニホンザルの四季ー志賀高原の夏ー. モンキー、264:24.

17）木下實（1995）ニホンザルの四季ー志賀高原の秋ー. モンキー、265・266:32.

翻訳

1）内田亮子（翻訳）（1995）「人はなぜ殺すかー狩猟仮説と動物観の文明史」M.カートミル著、(A View to a Death in the Morning－Hunting and Nature Through History)、新曜社.

学会発表等

－英文－

1）Takai, M. (1995) Dental Variability in Fossil New World Monkeys. The 30th Anniversary Yuanmou Man Discovery (Kunming, China, 1995).「元謀人」発見30周年記念古人類国際学術研究会要旨集

－和文－

1）茂原信生（1995）霊長類の眼窩形態. 第11回日本霊長類学会（1995年６月、犬山）, 霊長類研究, 11(3):335.

2）相見滿 1995.スマトラのコノハザル類の分布. 第11回日本霊長類学会大会（1995年6月、犬山). 霊長類研究、11(3):318.

3）高井正成・瀬戸口烈司（1995）ホエザルの祖先種*Stirtonia*における性的二型の存在. 第11回日本霊長類学会大会（1995年6月、犬山). 霊長類研究、11(3):317.

4）中務真人・高井正成・瀬戸口烈司（1995）南米コロンビア、ラ・ベンタから出土した*Neosaimiri*の四肢骨化石. 第11回日本霊長類学会大会（1995年6月、犬山). 霊長類研究、11(3):316.

5）高井正成・Federico Anaya D.・瀬戸口烈司（1995）南米ボリビアの後期漸新統から見つかる最古の広鼻猿類化石の個体変異. 日本古生物学会第144回例会（1995年6月、横須賀). 講演予稿集、p35.

6）瀬戸口烈司・高井正成（1995）南米コロンビアの中期中新世のホエザルの化石に見られる性的二型. 日本古生物学会第144回例会（1995年6月、横須賀). 講演予稿集、p 36.

7）内田亮子（1995）現生大型類人猿歯形態の種内変異：化石種分類への意義. 第49回日本人類学会・日本民族学会連合大会（1995年10月、千葉).

社会生態研究部門

生態機構分野

杉山幸丸・森　明雄・山極壽一・松村秀一

研究概要

A）西および中央アフリカに生息する大型類人猿の行動・生態学

杉山幸丸・山極壽一・山越　言[1]・竹元博幸[1]

全個体識別のもとに長期追跡してきたギニア国ボッソウの野生チンパンジーについては、野外実験も含めた道具使用行動の詳細な観察とＶＴＲ記録の分析・整理を進め、その発達と伝播の分析をおこなった。また、近隣個体群との遺伝的・文化的交流関係の分析のため、隣国のコートジボアールにまで広がるニンバ山地で調査した。さらに、生息地の食物資源・採食量測定と土地利用から食物季節と道具使用発生の原因を探求した。

ガボン国プティ・ロアンゴ保護区では、同所的に生息するゴリラとチンパンジーの生息密度と両種の食物樹の密度を調査した。その結果、この海岸林は類人猿の重要な食物である地上性草本類を欠いているが、年間を通して実をつける樹種の密度が高く、両種ともに他地域に比べ高い生息密度で生息していることが判明した。

B）エチオピアに生息するヒヒ類の研究

森　明雄

ヒヒ類の重層社会を行動学的に分析することを目標として、４年にわたり、エチオピア南部アルシ州のゲラダヒヒのポピュレーション調査をおこなった。昨年の調査では、ゲラダヒヒのヒョウに対する防衛行動や子殺しなどを発見したほか、ユニット構造が従来の観察に比べて緩やかである等の新たな知見を得た。現在も調査を継続中である。

C）スラウェシマカクの研究

松村秀一・室山泰之[2]・岡本暁子[1]

マカクの社会行動の進化に関する比較研究の一環として、インドネシア・スラウェシ島に生息するムーアモンキーの野外研究を続けている。1990年以来の資料の分析を進め、ゆるやかな優劣スタイルの特徴を明らかにする努力を続けている。また、現地調査により交尾に対する干渉行動やオスのラウドコール等に関する新たな資料を収集し、成果の一部を発表した。さらに、中部スラウェシ州の種間雑種形成地域周辺の分布調査をおこなった。

そのほか、飼育下のトンケアンマカクを対象とした音声及び社会交渉の研究もおこなった。

D）ニホンザルの採食・繁殖生態と個体群動態の研究

杉山幸丸・森　明雄・山極壽一・Vanessa J. Hayes[3]・室山泰之[2]・栗田博之[1]・松原　幹[1]

ニホンザル個体の社会的地位と採食・繁殖戦略との関係の解明のため、大分県高崎山、宮崎県幸島、鹿児島県屋久島の餌づけおよび自然群と、犬山市大平山の放飼場群を対象に研究を進めてきた。食物の時間的、空間的分散の変化のもとで性、年齢、社会的地位の相違により採食行動にあらわれる差の把握につとめ、また、栄養量測定に基づく摂取栄養量の把握と、それらと繁殖成功度との関係を検討した。特に幸島群では、採食速度の時間的変化の解析と性成熟の遅滞現象に焦点を置き、それらに関わるデータの収集と分析を試みた。また、一時的食物貯蔵庫としての頬袋の使用を性・年齢・順位との関係を餌づけ群と所内放飼群で調べたほか、頬袋容量の計測もおこなった。

屋久島では、最も果実の種類が豊富な10-1月にかけて、野生ニホンザルの採食様式を調査し、異なる果実の選択にしたがって群れの遊動コースが変わり、これが群れ間の出会いに大きく影響していることを明らかにした。また、朝、昼、夕刻という異なる時間帯で採食果実の種類や採食頻度が異なることも判明した。

一方、犬山市大平山放飼集団において、ニホンザルメスの性行動の観察と糞尿に含まれるホルモンの測定を、筑波霊長類センターと共同しておこなっている。これまでのところ、この非侵襲的方法によるホルモン動態の分析は順調に進んでおり、ニホンザルメスの繁殖戦略の解明につながる結果が期待されている。

さらに、ニホンザルの全生息数を推定しその動態を環境との関連で解明する研究も進めている。

論文

－欧文－

1）Matsumura, S. (1996) Postconflict affiliative contacts between former opponents among wild moor macaques (*Macaca maurus*). Amer. J. Primatol. 38(3): 211-220.

1）大学院生、2）COE研究員、3）招聘外国人学者

2）Watanabe, K., & Matsumura, S.(1996) Social organization of moor macaques, *Macaca maurus*, in the Karaenta Nature Reserve, South Sulawesi, Indonesia. In: T. Shotake, & K. Wada (Eds.), Variations in the Asian Macaques. pp.147-162. Tokyo: Tokai Univ. Press.
3）Muroyama, Y. (1995) Developmental changes in mother-offpsring grooming in Japanese macaques. Amer. J. Primatol. 37(1): 57-64.
4）Muroyama, Y. (1995) Conduite des séquences du toilettage chez le macaque japonais (*Macaca fuscata*). In: Marie Trabalon (ed.), Actes des Colloques de la S.F.E.C.A., pp.127-131. Nancy: Université Henri Poincaré.
5）Ohsawa, H. & Sugiyama, Y. (1996) Population dynamics of Japanese monkeys at Takasakiyama: Trends in 1985-1992. In: T. Shotake & K. Wada (eds.), Variations in the Asian Macaques, pp.163-179. Tokyo: Tokai Univ. Press.
6）Sugiyama, Y. (1995) Tool-use for catching ants by chimpanzees at Bossou and Monts Nimba, West Africa. Primates 36(2): 193-205.
7）Sugiyama, Y. (1995) Drinking-tools of wild chimpanzees at Bossou. Amer. J. Primatol. 37(3): 263-269.
8）Yamakoshi, G. & Sugiyama, Y. (1995) Pestle-pounding behavior of wild chimpanzees at Bossou, Guinea: A newly observed tool-using behavior. Primates 36(4): 489-501.
9）Yumoto, T., Maruhashi, T., Yamagiwa, J. & Mwanza, N. (1995) Seed-dispersal by elephants in a tropical forest in Kahuzi-Biega National Park, Zaire. Biotropica 27: 526-530.

－和文－

1）松村秀一（1995）社会的緊張を外からはかるには？－ニホンザルワカオスの集団間移籍と「転移行動」－．霊長類研究11(1): 9-16.
2）杉山幸丸・岩本俊孝・小野勇一（1995）餌付けニホンザルの個体数調整．霊長類研究11(3): 197-207.

総説

－和文－

1）松園万亀雄・須藤建一・菅原和孝・栗田博之・棚橋訓・山極寿一（1996）：「性と出会う」、東京，講談社.
2）杉山幸丸（1995）動物の道具使用と人類文化発生の条件．霊長類研究 11(3): 215-223.
3）山極寿一（1995）家族の起源を考える．UP 273: 1-5.
4）山極寿一（1995）サルからヒトへ-父性の登場-．東京女子大学学会ニュース 92: 2-3.

報告・その他

－英文－

1）Basabose, K., Mbake, S. & Yamagiwa, J. (1995) Research and conservation of eastern lowland gorillas in the Kahuzi-Biega National Park, Zaire. Gorilla Conservation News 9: 11-12.
2）Matsumura, S. (1995) Affiliative mounting interference in *Macaca maurus*. Kyoto University Overseas Research Report of Studies on Asian Non-Human Primates 9: 1-5.

－和文－

1）室山泰之（1995）毛づくろいのルール．モンキー 264: 18-21.
2）杉山幸丸（1995）加齢（老化）、生活史．発達心理学辞典（岩田純一他編）、京都、ミネルヴァ書房、pp.114-115., pp.382.
3）杉山幸丸（1995）海外調査と経済援助．学術月報 48(5): 547.
4）杉山幸丸（1995）ＩＰＳの窓．霊長類研究 11(3): 276-277.
5）山極寿一（1995）父性愛．発達心理学辞典（岩田純一他編）、京都、ミネルヴァ書房、pp.596.
6）山極寿一（1995）ゴリラのまなざし．世界と人口（1995年6月号）255: 2-3.
7）山極寿一（1995）類人猿の知恵は人類の知恵．ばっくあっぷ 15: 39-42.
8）山極寿一（1995）ゴリラは人類の先祖を映す鏡．National Geographic（日本版1995年10月号）：50.
9）山極寿一（1995）サタンの水－中央アフリカ・キブ湖畔の酒－．酒づくりの民族誌（山本紀夫・吉田集而編著）、東京、八坂書房、pp.91-99.

10）山極寿一（1995）付き合いの美学ーマウンテンゴリラー．いま、野生動物たちは（地球の声のネットワークナスカ・アイ編）、東京、MARUZEN BOOKS、pp.73-75.
11）山極寿一（1995）ゴリラから見たヒト．なきごえ 359: 4-5.
12）山極寿一（1996）直立歩行は舌からはじまった．大航海 9: 71-81.

学会発表

ー英文ー

1）Yamagiwa, J. (1995) Sympatry of gorillas and chimpanzees in eastern Zaire. Primate Society of Great Britain Spring Meeting 1995 (5-6 Apr., 1995: Edinburg). Primate Eye, 55: 22-23.

ー和文ー

1）阿部操・中井重影・林寿美子・小林秀司・茂原信生・竹元博幸・今村基尊・金澤英作・岩澤忠正（1995）人工的な環境がヤクシマザルの歯列弓および歯に及ぼす影響．第54回日本矯正歯学会大会（1995年10月，札幌）．講演要旨集、p.115.
2）Domingo-Roura、X.・山極寿一（1995）果実季におけるヤクシマザルの食物選択．第11回日本霊長類学会大会（1995年6月、犬山）．霊長類研究 11(3): 295.
3）栗田博之（1995）ニホンザルのコドモのグルーミング交渉における性差について．第11回日本霊長類学会大会（1995年6月、犬山）．霊長類研究 11(3): 328.
4）栗田博之（1995）ニホンザルにおける発情のタイミングについて．第42回日本生態学会大会（1995年8月、岩手）．講演要旨集、p.137.
5）松村秀一（1995）ムーアモンキーにおけるコドモを抱いているメスの魅力．第11回日本霊長類学会大会（1995年6月、犬山）．霊長類研究 11(3): 285.
6）松村秀一・岡本暁子（1995）ムーアモンキーのコドモが交尾を邪魔するのは？第14回日本動物行動学会（1995年12月、三田）．発表要旨集、p.20.
7）森明雄・岩本俊孝(1995)「ルーズなユニット構造をもつゲラダヒヒの新しい個体群」．第32回日本アフリカ学会学術大会（1995年5月、半田）．講演要旨集、p.47.
8）室山泰之（1995）行動学から見た種の輪郭．第11回日本霊長類学会大会自由集会「霊長類のアイデンティティー」（1995年6月、犬山）．
9）室山泰之（1995）ニホンザル(*Macaca fuscata*)における母子間の毛づくろいの発達的変化．第14回日本動物行動学会大会（1995年12月、三田）．発表要旨集、p.18.
10）室山泰之・Thierry、B. (1996) トンケアンマカクは他種のラウドコールを聞き分けるか？第43回日本生態学会大会（1996年3月、八王子）．発表要旨集、p.137.
11）岡本暁子・松村秀一（1995）ムーアモンキーのαオスはいつラウドコールを出すのかー個体と群れの同時追跡の試みー第14回日本動物行動学会（1995年12月、三田）．発表要旨集、p.48.
12）杉山幸丸（1995）サルと人間．国家公務員共済組合連合会医学会大会特別講演（1995年10月、別府）．
13）杉山幸丸（1996）ニホンザルの餌付けと動物園のあり方を考える．第40回プリマーテス研究会（1996年2月、犬山）．
14）山極寿一（1995）サルはどうしてヒトになったか：アフリカ類人猿の比較から．第32回日本アフリカ学会学術大会公開講演（1995年5月、半田）．講演要旨集、p.1.
15）山極寿一（1995）果実の不足をチンパンジーはどうしのいでいるか-ゴリラとの比較から．第5回日本熱帯生態学会大会（1995年6月、吹田）．講演要旨集、p.48.
16）山極寿一（1995）ゴリラとチンパンジーの食性．第6回日本咀嚼学会大会（1995年9月、名古屋）．講演要旨集、p.39-40.
17）森明雄・岩本俊孝（1995）ゲラダヒヒの新しいポピュレーションで見られた子殺しの例．第11回日本霊長類学会大会（1995年6月、犬山）．霊長類研究 11(3): 286.
18）岩本俊孝・森明雄・河合雅雄（1995）ゲラダヒヒの対捕食者行動について．第11回日本霊長類学会大会（1995年6月、犬山）．霊長類研究 11(3): 286.

1）大学院生、2）COE研究員